



Title	臨床哲学ニューズレター 第5号 目次
Author(s)	
Citation	臨床哲学ニューズレター. 2023, 5
Version Type	VoR
URL	https://hdl.handle.net/11094/90059
rights	
Note	

The University of Osaka Institutional Knowledge Archive : OUKA

<https://ir.library.osaka-u.ac.jp/>

The University of Osaka

臨床哲学ニューズレター

Vol.5

— 目 次 —

目次	(1)
----------	-----

【特集1】 第5回臨床哲学フォーラム（シリーズ：あたらしい倫理学）

テーマ「人の生と研究をめぐる倫理」

第5回臨床哲学フォーラム

「人の生と研究をめぐる倫理」の特集にあたって	小西 真理子 (3)
ロボット発言事件を振り返って	堀江 剛 (5)
あらがう、りんしょう、てつがく	ほんま なほ (9)
「理論の探求」と「事例」	土屋 貴志 (29)
第5回臨床哲学フォーラムへの感想文「研究が人を傷つけてしまうこと」	Trin (38)

【記録】 第6回 臨床哲学フォーラム（あたらしい倫理学）

テーマ「『受容と回復のアート』を読む」

第6回臨床哲学フォーラム

「『受容と回復のアート』を読む」の記録	ほんま なほ (40)
---------------------------	-------------

【特集2】 第7回臨床哲学フォーラム（シリーズ：ふるいにかけられる声を聴く）

テーマ「研究者になるということ：研究者と当事者のあいだで」

第7回臨床哲学フォーラム「研究者になるということ：研究者と当事者のあいだで」

の特集にあたって	小西 真理子 (42)
研究者になるということ——研究者と当事者のあいだで	小松原 織香 (44)
質問1「ガタつく『研究者』」	鈴木 萌花 (49)
質問2「〈自分の問題〉との距離のとりかた」	吉田 裕香 (51)
質問3「臨床哲学という学びの環境」	二宮 晃紀 (53)
質問4「『カテゴリー』をめぐる問題について」	六郷 颯志 (55)
小松原さんによる質問者への応答	小松原 織香 (57)

第7回臨床哲学フォーラムへの感想文①『研究者になるということ：

研究者と当事者のあいだで』をお聞きして」……………木村 祐子（63）

第7回臨床哲学フォーラムへの感想文②……………宮本 綾（65）

【特集3】 第8回臨床哲学フォーラム（シリーズ：ふるいかけられる声を聴く）

テーマ「狭間からの呼び声：まちなか相談室「風の^{いえ}舎」に集う人々」【院生企画】

第7回臨床哲学フォーラム「狭間からの呼び声：まちなか相談室「風の^{いえ}舎」に集う人々」

の特集にあたって……………六郷 颯志（67）

不登校の制度的支援の現在：私的経験を交えて……………六郷 颯志（70）

狭間からの呼び声——まちなか相談室「風の^{いえ}舎」に集う人々……………内村 公義（78）

対談：自己病名は吉野大輔……………吉野 大輔×内村 公義（84）

質疑応答……………内村 公義×吉野 大輔×六郷 颯志×会場のみなさま（90）

【特集4】 生き延びることの倫理：

非規範的なジェンダー・セクシュアリティとボールルーム・カルチャー

「生き延びることの倫理：非規範的なジェンダー・セクシュアリティと

ボールルーム・カルチャー」の特集にあたって……………高橋 綾（96）

（解説）*Paris is Burning* とボールルーム・カルチャー……………ほんま なほ・高橋 綾（98）

パリはなおも燃えている

——ボールルーム・カルチャーと新たな親密圏／公共圏の生成……………魚住 洋一（102）

ボールルーム・カルチャーとその表現をどう考えるか：

エージェンシーと文化運動……………高橋 綾（122）

“わたしたちは いきのびなくてもよいもの だった”……………ほんま なほ（131）

研究室主催イベント&アセンブリアワーの記録……………（152）

執筆者一覧……………（154）